

史料群番号 47

史料群名	いまいはちろう 今井八郎家文書	旧所蔵者	今井八郎
探訪時住所	(神奈川県大住郡羽根村)		
現在の住所	神奈川県秦野市		
探訪年月	不明		
史料の年代	延宝8(1675)年~明治27(1894)年	史料の総点数	70点
年代の内訳	近世 9点/近代 61点	筆写稿本	なし
既刊行目録	なし		

収蔵にいたる経緯

探訪に関する書類はなく、詳細は不明である。史料には、今井八郎あるいは八郎右衛門の名が登場し、これは近世の相模国大住郡羽根村の今井家に伝来した史料群であること示している。現在、国文学研究資料館史料館(人間文化研究機構)に収蔵されている「相模国大住郡羽根村今井家文書」との関連を考慮する必要がある。史料館所蔵の「今井家文書」は元々澁澤敬三の旧蔵資料「祭魚洞文庫」に含まれていたもので、戦後「祭魚洞文庫」は、文部省史料館(現在の国文学研究資料館史料館)と水産資料館(現中央水産研究所)に分割して移管された。元々一体だった本史料群が、祭魚洞文庫の移動にともない分割された可能性がある。

史料群の概要

大住郡羽根村は近世から明治22年まで存続、その後北秦野(はだの)村、昭和30年からは秦野市となっている。近世を通じて幕府領の時期が長いが、幕末には金沢藩領となった(「角川日本地名大辞典」)。  
 総じて、年貢に関するもの、明細帳など村政全般に関わるような史料は少なく、金子借用証文や「天王様講」に関する証文、小作関係など金銭の出入りを示す史料が多い。

